

指導と評価の計画【地理歴史科 日本史B】

単元名 幕政の安定	内容のまとめり (3) 近世の日本と世界 ウ 産業経済の発展と幕藩体制の変容
---------------------	-----------------------------------------------------

1 単元の目標

- ・近世の日本と世界の展開に関わる諸事情について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から、近世の日本と世界に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ・法・制度による支配秩序の形成という幕藩体制の特質を理解するとともに、幕藩体制が転換していく過程について理解する。
- ・社会・経済の仕組みの変化、幕府や諸藩の政策の変化などに着目して主題を設定し、近世の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈などを、根拠を示して表現する。
- ・文治政治への転換に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・文治政治への転換期の政治・経済・宗教政策などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、武断政治から文治政治への転換を理解している。 ・近世の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取っている。	・文治政治への転換期の時代背景に着目しながら、政策の意図や影響を多角的・多面的に考察し、表現している。 ・武断政治から文治政治への転換について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現している。 ・歴史資料の特性を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、武断政治から文治政治への転換について多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。	・文治政治への転換期における諸事情について、見通しをもって学習に取り組み、課題を追究しようとしている。

3 指導と評価の計画（3時間）（○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」）

次	時	学習活動	評価の観点			評価規準等
			知	思	態	
第①次	第1時	【ねらい】 文治政治への転換期にあたる徳川家綱・綱吉の政策を、幕府成立期の武断政治の政策と比較しながら考察し、文治政治への転換を狙った政策の意図を表現する。 【課題】 「武断政治から文治政治への転換」について、影響のあった政策を3つ選びその内容を考察しよう。				

		<p>グループワーク</p> <p>徳川家綱・綱吉の文治政治への転換政策について以下の課題に取り組む。</p> <p>課題 a 当時の幕府の課題を読み取り、徳川家綱・綱吉が行った課題への対策を調べる。その政策の意図を、前後の歴史の展開から考察して話し合い、結論を表現する。</p> <p>・授業プリントで政策を確認し、資料を活用しながら政策の意図や影響についてまとめていく。</p>	●	●	<p>●文治政治への転換に対する学習の見直しをもち、主体的に課題に取り組み、話し合いに参加している。</p> <p>●資料から学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。</p> <p>●文治政治への転換に関わる、政策の意図や影響について、適切に表現できている。</p>
	第2時	<p>生類憐れみの令の意図</p> <p>課題 b 江戸時代の人々をめぐるエピソードから、人々の考え方の変化を読み取り、その変化をもたらした政策が何であるのかを考察し、その結果を表現する。</p> <p>グループワーク</p> <p>・エピソードの資料問題に取り組み、人々の考え方の変化と文治政治への転換政策との関連を考察し、発表を行う。</p>	●	●	<p>●各エピソードから時代の変化を読み取り、文治政治への転換政策と関連付けて考察し、その結果を表現している。</p> <p>●エピソードを踏まえて考察し、その内容を的確に発表できている。</p>
第②次	第3時	<p>文治政治への転換のまとめ</p> <p>・文治政治への転換期の政策について理解し、文治政治への転換を狙った政策の意図を考察し、ワークシートにまとめる。</p> <p>まとめの発表</p> <p>・ワークシートにまとめた内容をグループ内で交流し発表する。</p> <p>学習の振り返り</p> <p>・学習を振り返り、興味・関心をもったこと、疑問に思ったことを基に、文治政治への転換に関する新たな問いを表現する。</p>	○	○	<p>○武断政治から文治政治への転換を理解している。</p> <p>○単元のねらいを踏まえた内容を表現している。</p> <p>○文治政治への転換に関して抱いた興味・関心や疑問点を基に、時代を通観する新たな問いを表現している。</p>

4 観点別学習状況の評価の進め方

○今回の授業における評価基準

評価は授業後に提出するレポートを中心に行う。それぞれの観点についての評価基準は以下のように設定した。

1：知識・技能

- ・ A評価：単元のねらいに沿った記述に加え、発展する内容を考察し記述できている。
- ・ B評価：単元のねらいに沿った記述がおおむねできている。
- ・ C評価：単元のねらいに沿った記述ができていない、不足している。

2：思考・判断・表現

- ・ A評価：個々の政策評価にとどまらず、時代を通観する変化についての記述がある。
- ・ B評価：個々の政策についての的確に評価し、記述ができている。
- ・ C評価：記述内容が表面的なものにとどまり、テーマの内容を捉えられていない。

(B評価の例)

末期養子の禁止で改易を減らすことで牢人の増加を防ぎ、殉死の禁止で下剋上の防止を目指した。さらに武家諸法度で文武忠孝、礼儀を尊重する旨を表明した。

(A評価の例)

朱子学や生類憐れみの令により、人々の倫理観が現代のものに近づいたことが、文治政治への転換がうまくいった要因と言える。

儒学や生類憐れみの令は半ば強制的なものであったが、これにより「命」の大切さが尊重され、本当の意味での「平和」に近づいた。

3：主体的に学習に取り組む態度

- ・ A評価：単元のねらいを踏まえ、時代を通観する新たな問いを設けている。
- ・ B評価：単元のねらいを踏まえた、新たな問いを設定できている。
- ・ C評価：文章量が少なく、問いが表面的なものにとどまっている。

(B評価の例)

なぜ幕府は最初から文治政治の方針を採らなかったのだろうか。

今までは武断政治で押し通してきたのに、なぜ急に文治政治を取り入れようとしたのだろうか。

慶安の変はそれほど衝撃的な出来事だったのだろうか。

(A評価の例)

日本では生類憐れみの令などがきっかけになって現代の倫理観に近づいたことがわかったが、ヨーロッパや中国といった民族間の争いが激しい地域では、どのように命に対する倫理観が現代ものに近づいたのだろうか。

5 今後の課題

- ・改めて評価の難しさを感じた。ともすればテストの成績で評価をすることが中心となっていたが、各生徒の理解をより深いレベルで求めて表現させ、評価を行うのは労力のかかることだった。
- ・特に、評価基準をどの程度に設定するかも迷うことが多かった。ともすればA評価からの減点による評価となりがちだった。単元の目標と評価規準の関係をしっかりと精査し、B評価の基準を適切に設定することが重要であることを感じた。